

「山形市初市」

■ 初市の起源

初市は最上義光公(1546～1614)治世の江戸時代初期から続く伝統行事です。当時、山形には三日町、五日町、七日町、十日町など、定期の市が立つ市日町がありましたが、それら市の中心として十日町に市神(いちがみ)が祭られ、毎年1月10日に、市神祭りとして十日町～七日町にかけて多くの露店が立ち並び、縁起物をはじめいろいろな物を並べて売り立てるようになりました。



■ 主催者 山形商工会議所

■ 日 時 令和4年1月10日(月) 午前10:30～午後4:30

■ 会 場 山形県郷土館「文翔館」

■ 出店数 24店舗(山形市内縁起物販売者、村山地区お祭り協議会会員)

■ 販売物

縁起物(初飴、かぶ、白ひげ、団子木、船せんべいなど)

木工品(まな板、臼、杵、はしごなど)

打ち刃物、一般露店(どんどん焼きなど)

■ 縁起物

初飴 山形特産の紅花が豊作で、花商いがうまくいくようにとの願いから。(昔は、盛飴もしくは旗飴。紅餅を花むしろの上に並べて乾燥することから、白紙に点々と水飴を盛った盛飴(旗飴)がもとになっています)

かぶ 蕪 江戸時代、株は同業組合の一員としての地位や特権を表す言葉でしたが、初市の蕪は、その株に掛けて商売繁盛や身代が大きくなるようにとの願いから。

白ヒゲ 白いひげのように、豊かな老人になるまで長生きできるようにとの願いから。(野蒜の一種)



だんご木 豊作、実がたくさんなるようにとの願いから。(木:みず木)

感染防止対策として、ご来場の際は検温、消毒、連絡先記入にご協力願います。

また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催中止の判断をさせていただきますので、ご了承ください。